



櫛能・金剛流による船弁慶

「櫛能」と私

東海大学教授
鍛治 光雄



プロフィール

1950年石川県金沢市生れ。金沢大学教育学部附属高校卒。
1971年東海大学文学部日本文学科入学。1980年大学院文学研究科（日本文学専攻）博士課程修了。1982年東海大学文学部助手。講師・助教授を経て2003年教授。専門は中世連歌。中世文学会・俳文学会会員。

毎年11月1日から4日まで東海大学湘南校舎におきまして「建学祭」が開催されます。キャンパスでは学生たちが日頃の活動成果を披露し、また模擬店が富士見通りなどに立ち並び活気に溢れた4日間となります。その「建学祭」の前日10月31日の夕暮時、1号館前の噴水池には2基の篝火（かがりび）があかあかと燃え、静かなキャンパス内に笛や鼓の音が響き渡ります。「櫛能」が行われるのです。篝火の下で行われるわけですから、いわゆる「薪能」です。正確にいえば「櫛能—薪能形式による—」ということになります。

東海大学で行っている薪能を「櫛能」と称しているのには理由があります。1989年のことですが、日本文学科の蟹江秀明教授（現理事）と堀越善太郎教授が、なんとかキャンパス内で薪能を開催できないものか、と思案しておりました。そして1号館前の噴水池を見た時に、この池の上に能舞台を設定し池中で篝火を燃やせばさぞ美しい能となるだろうと直感したのです。多数を占める理工系学生が能を直に見ることにより、日本の伝統芸能を理解することにもつながり、東海大学における学生教育にも大きく貢献するだろうと考えたのです。

そして翌1990年に建学祭の前夜祭として開催されることになりました。さらに当時総長の松前重義博士(故人)が「薪能に際して学生に与ふ」と題した曲を作詞されました。これに金剛流宗家の金剛巖氏が曲を付され、当日独吟の形で上演されることになったのです。その後半部分を以下に記しておきます。

願わくば櫛の如くわれ生きん 櫛の如くわれ生きん 緑に萌えて紅に、散れどもやがて春来れば 芽を吹く梢の葉にも似て さわやかなれや若き人 芽吹く櫛のそのごとく 健やかなれや若人よ すこやかなれや若人

博士はその著書『櫛と私』の中で

恵まれた土壤に根をおろし、栄養分をどんどん吸収して天高く繁茂する櫛、
これこそ若い世代によせる希望と期待ではないかと思うのです。

とも述べられております。この櫛に込められた熱い思いが「櫛能に際して学生に与ふ」に結実し、学生に語りかけられたものです。このような経緯があって「櫛能」と名付けられたわけです。今日、櫛は東海大学の象徴ともされております。

こうして1990年10月31日の夜に第1回の「櫛能」が行われました。さらに当日、博士の銅像が能舞台をみおろすように設置され、まさしく博士が櫛能を通じて学生に語りかけるがごとく上演されたたのです。それ以後「建学祭」の前夜祭として毎年10月31日に行われ、昨年で14回を数えております。その間、近隣の皆様をはじめとして年々観賞される人が増え、近年は1,000名をはるかに超えるという東海大学の伝統行事として育ってまいりました。

この間に日本文学科の学生を中心として「能楽研究会」が結成され、能の研究が盛んに行われるようになりました。その中にM君がおりました。彼は能楽師の家系に生まれ、将来を悩んでおりましたが、「櫛能」で舞囃子（シテ一人が面・装束をつけず紋服のままで、地謡と囃子によって舞うもの）を舞い、その後能楽の世界に入っていったということがあります。また彼に刺激された学生たちが謡いと舞を学びはじめ、ついに実際に「櫛能」の舞台に立つということも実現いたしました。前述したことで、理工系学生が日本の伝統芸能を理解するよい機会となるとともに、文系の学生はその伝統芸能を直に体験するという思わぬ結果を生むということにもなりました。この「能楽研究会」の学生は、「櫛能」の準備、運営などにも関わり、東海大学に学んだという実感をもって卒業して社会に巣立っていったのです。まさしく松前重義博士の熱い思いが実現されているのです。

私は当初から両教授とともに「櫛能」の運営に関わってきました。現在も能関係の責任者として10月31日に向けて今から準備をいたしております。ふりかえれば私が東海大学に入学した30余年前の櫛は、まだ幹も細く枝ぶりも小さなものでした。現在は幹も太く大地にしっかりと根をおろしています。夏には大きな枝で心地よい日陰をつくり、冬には葉を落として、竹箒を逆さにしたように大空に枝を大きく広げて春を待っています。自然の営みを学生たちに見せているのです。私自身も櫛の生長とともにこの東海大学の中で成長してきたのかもしれないと改めて思わざるをえません。学生たちとともに準備をし、「櫛能」が無事終了したことを喜び、帰途につかれる人々を見送っております。そして学生たちとともにライトに浮か上がる櫛を見上げ、博士の熱い思いに感動を覚えております。

どうぞ皆様10月31日には東海大学湘南キャンパスにおいでください。そして櫛の下で能を御観賞下さい。



学内1号館前噴水池の特設能舞台